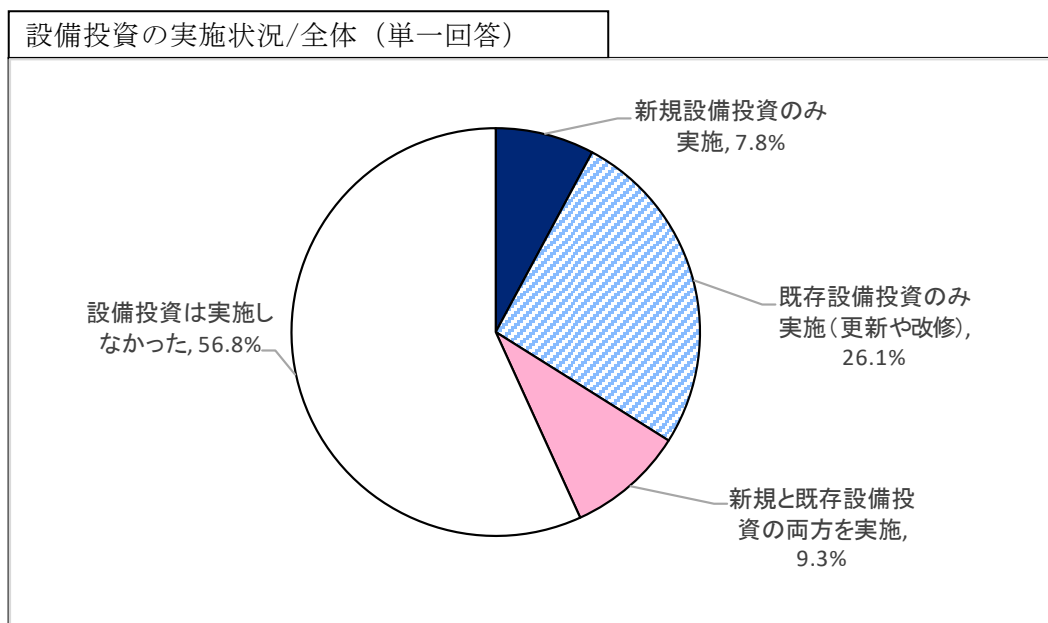


IV 特別調査事項

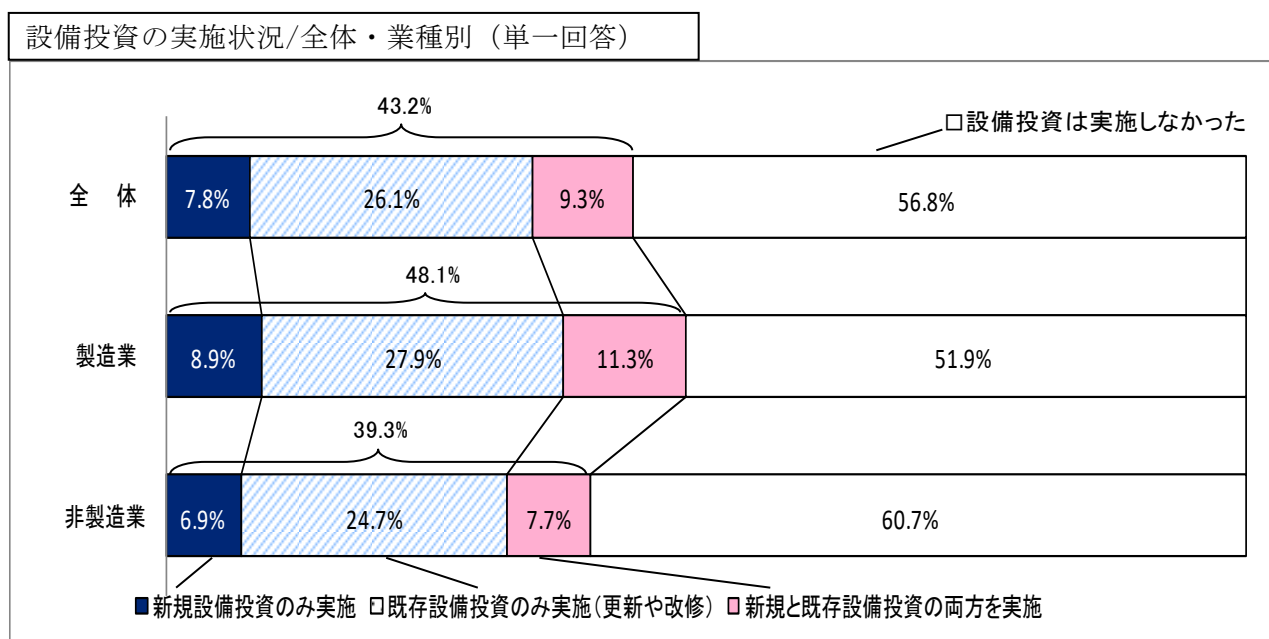
1 設備投資の実施状況について

(1) 昨年度（2019年4月～2020年3月）の設備投資の実施状況

- 昨年度の設備投資の実施状況について聞いたところ、全体では「設備投資は実施しなかった」（56.8%）が最も多く、次いで「既存設備投資のみ実施（更新や改修）」（26.1%）、「新規と既存設備投資の両方を実施」（9.3%）の順となった。
- 設備投資（新規のみ・既存のみ・新規と既存両方の合計）の実施割合は、43.2%となった。

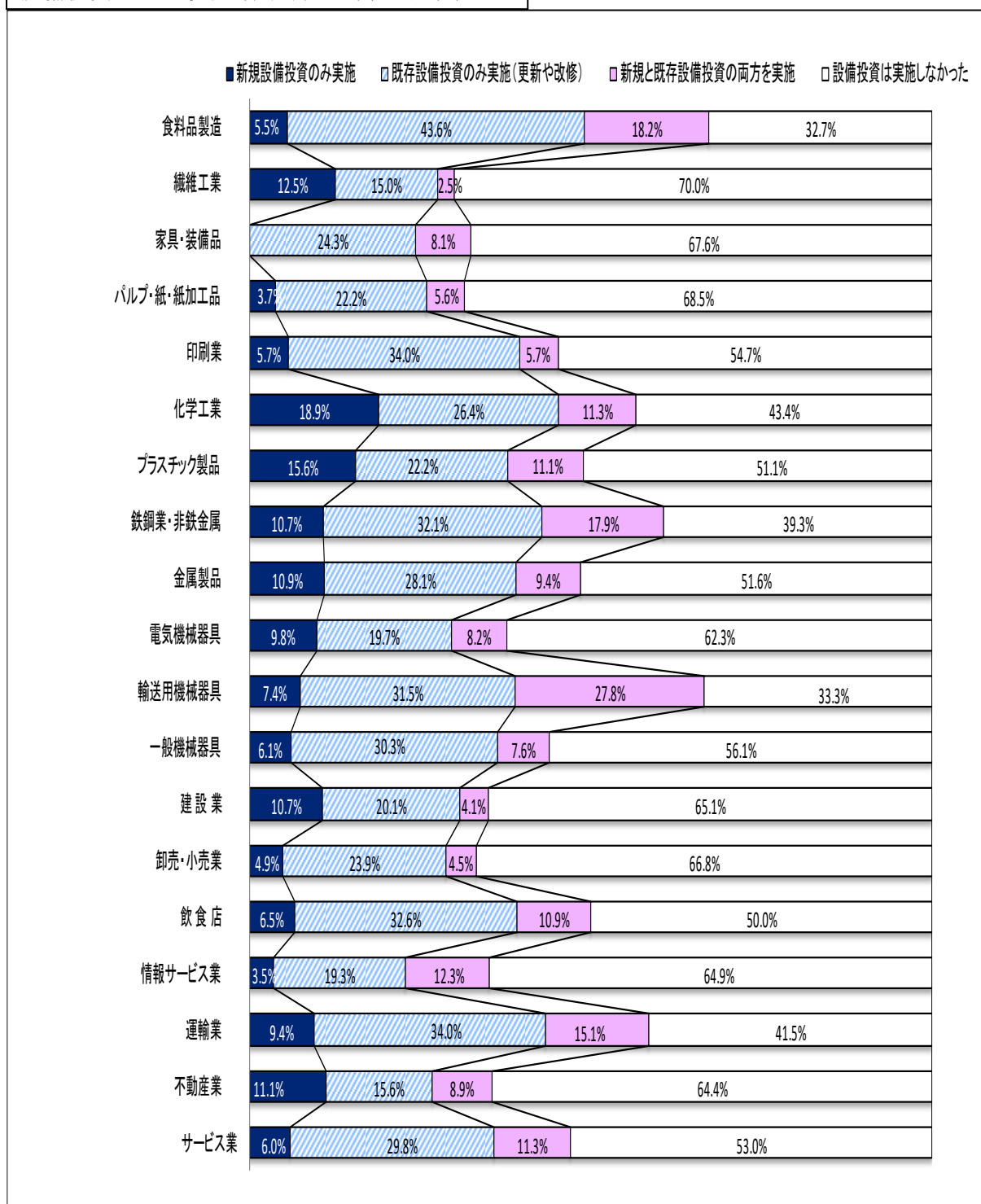


- 業種別でみると、設備投資（新規のみ・既存のみ・新規と既存両方の合計）の実施割合は、製造業は48.1%と非製造業の39.3%より、8.8ポイント高かった。



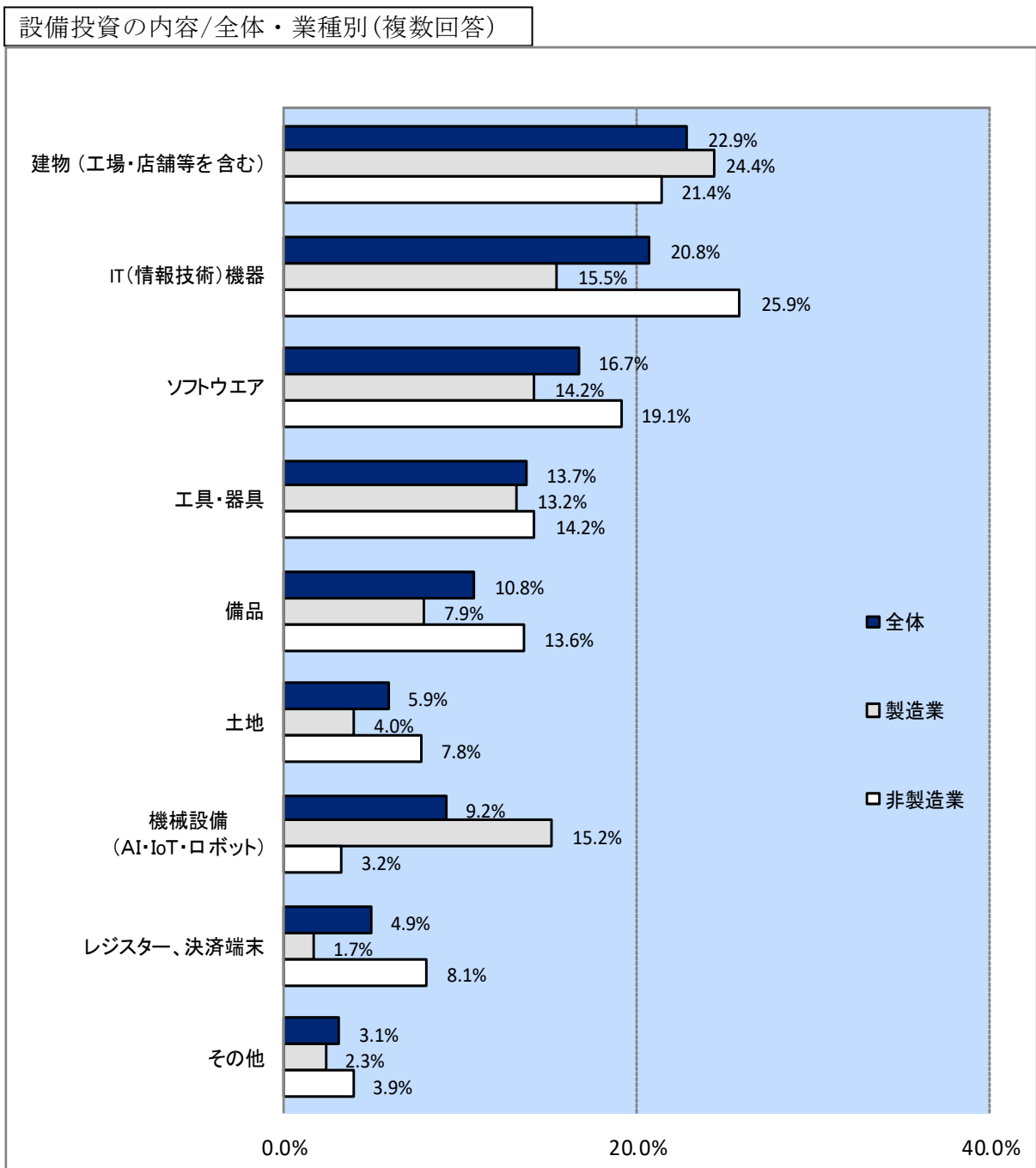
- 昨年度設備投資を実施した企業の業種をみると、製造業では「食料品製造」、「輸送用機械器具」、「鉄鋼業・非鉄金属」で回答割合が高く、非製造業では「運輸業」、「飲食店」、「サービス業」で回答割合が高かった。

設備投資の実施状況/業種詳細（単一回答）



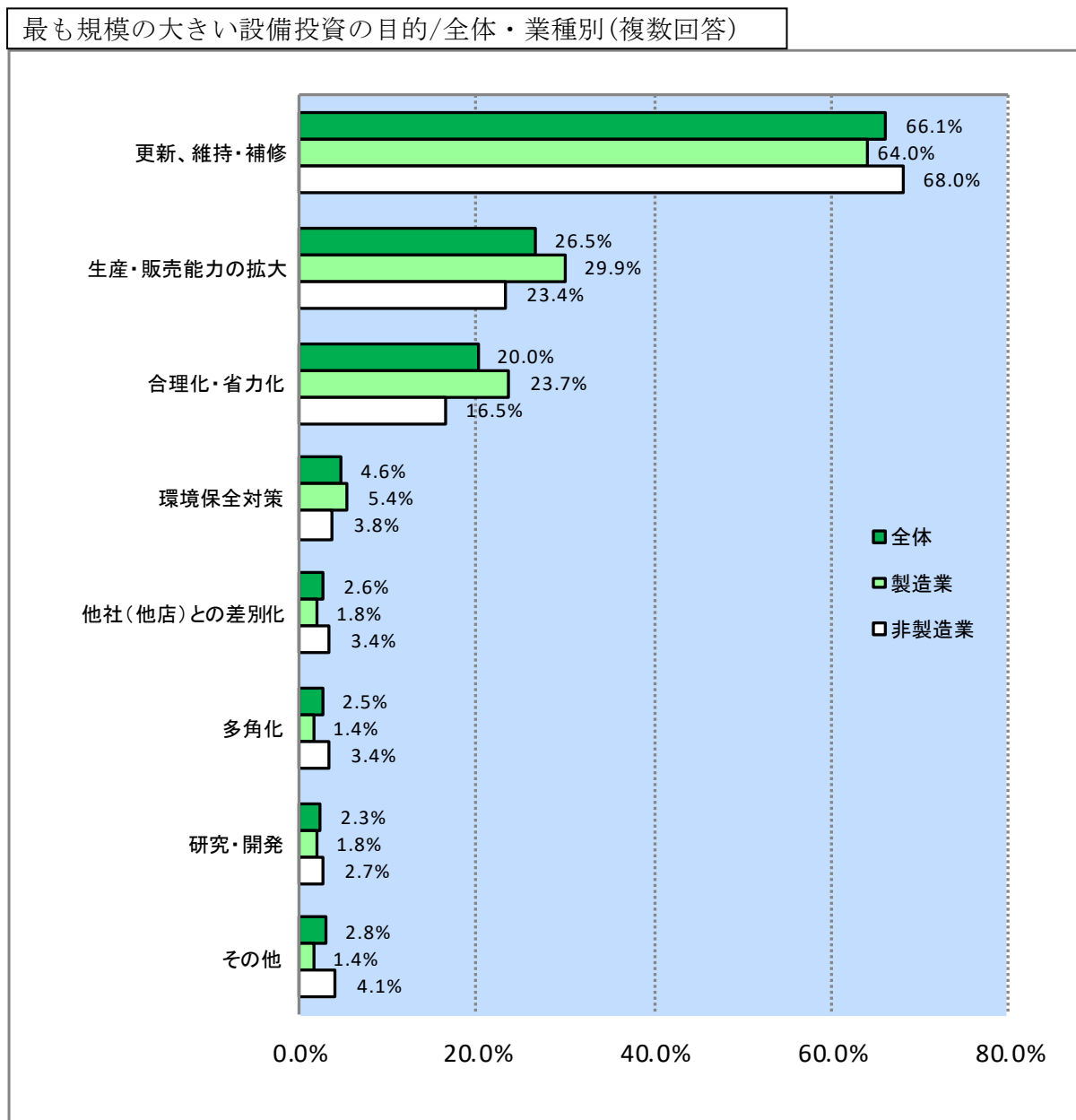
(2) 設備投資の内容（複数回答）

- 昨年度実施した設備投資の内容について聞いたところ、全体では「建物（工場・店舗等を含む）」（22.9%）が最も多く、次いで「IT（情報技術）機器」（20.8%）、「ソフトウェア」（16.7%）の順となった。
- 業種別でみると、製造業では「建物（工場・店舗等を含む）」（24.4%）が最も多く、次いで「IT（情報技術）機器」（15.5%）、「機械設備（AI・IoT・ロボット）」（15.2%）の順となった。
- 非製造業では「IT（情報技術）機器」（25.9%）」が最も多く、次いで「建物（工場・店舗等を含む）」（21.4%）「ソフトウェア」（19.1%）の順となった。



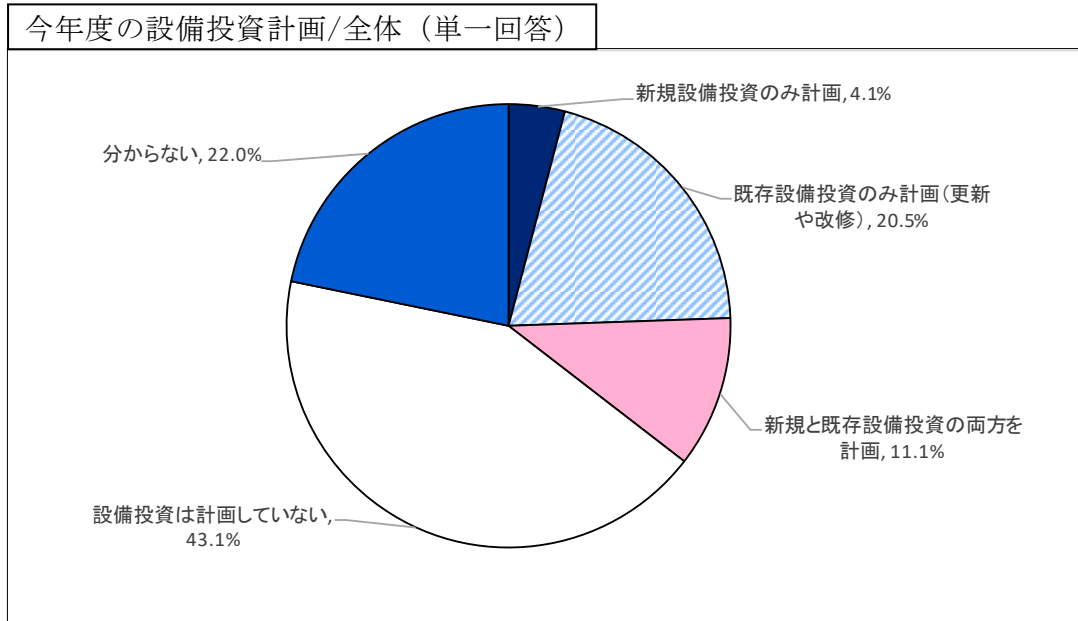
(3) 昨年度実施した中で最も規模の大きかった設備投資の目的（複数回答）

- 昨年度実施した中で最も規模の大きかった設備投資の目的について聞いたところ、全体では「更新・維持・補修」（66.1%）が最も多く、次いで「生産・販売能力の拡大」（26.5%）、「合理化・省力化」（20.0%）の順となった。
- 業種別でも、同様の順となった。

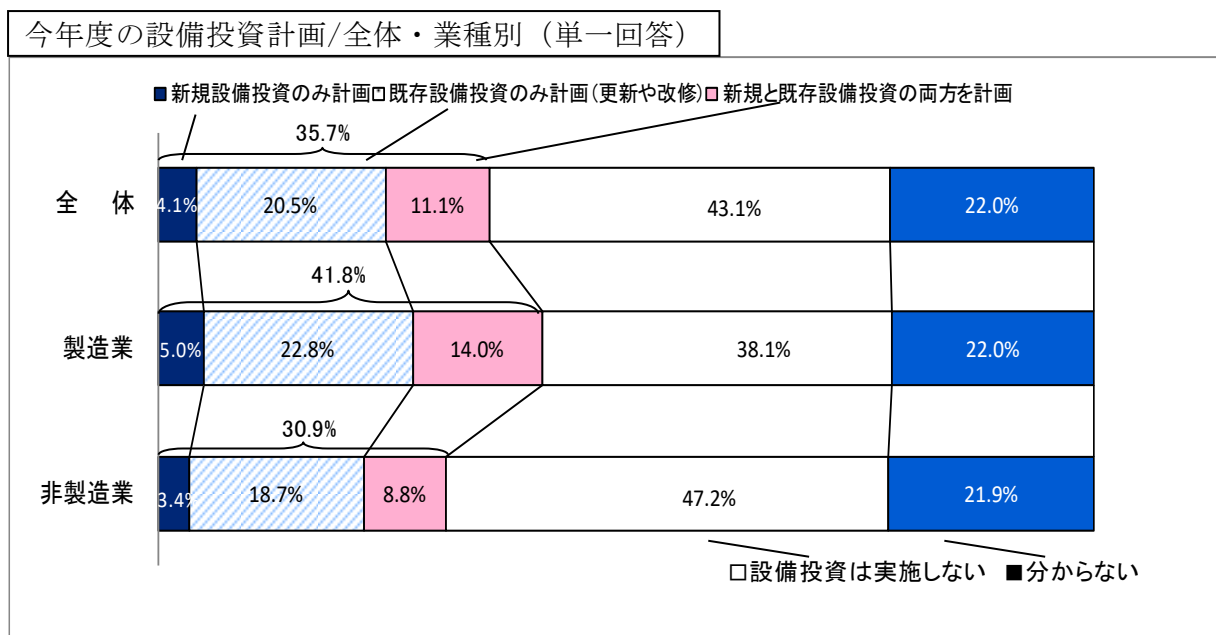


(4) 今年度（2020年4月～2021年3月）の設備投資計画

- 今年度の設備投資計画について聞いたところ、全体では「設備投資は実施しない」（43.1%）が最も多く、次いで「分からない」（22.0%）、「既存設備投資のみ実施（更新や改修）」（20.5%）の順となった。
- 今年度の設備投資（新規、既存、新規と既存両方の合計）の計画割合は、35.7%であり、昨年度（43.2%）より7.5ポイント減少する見込みである。



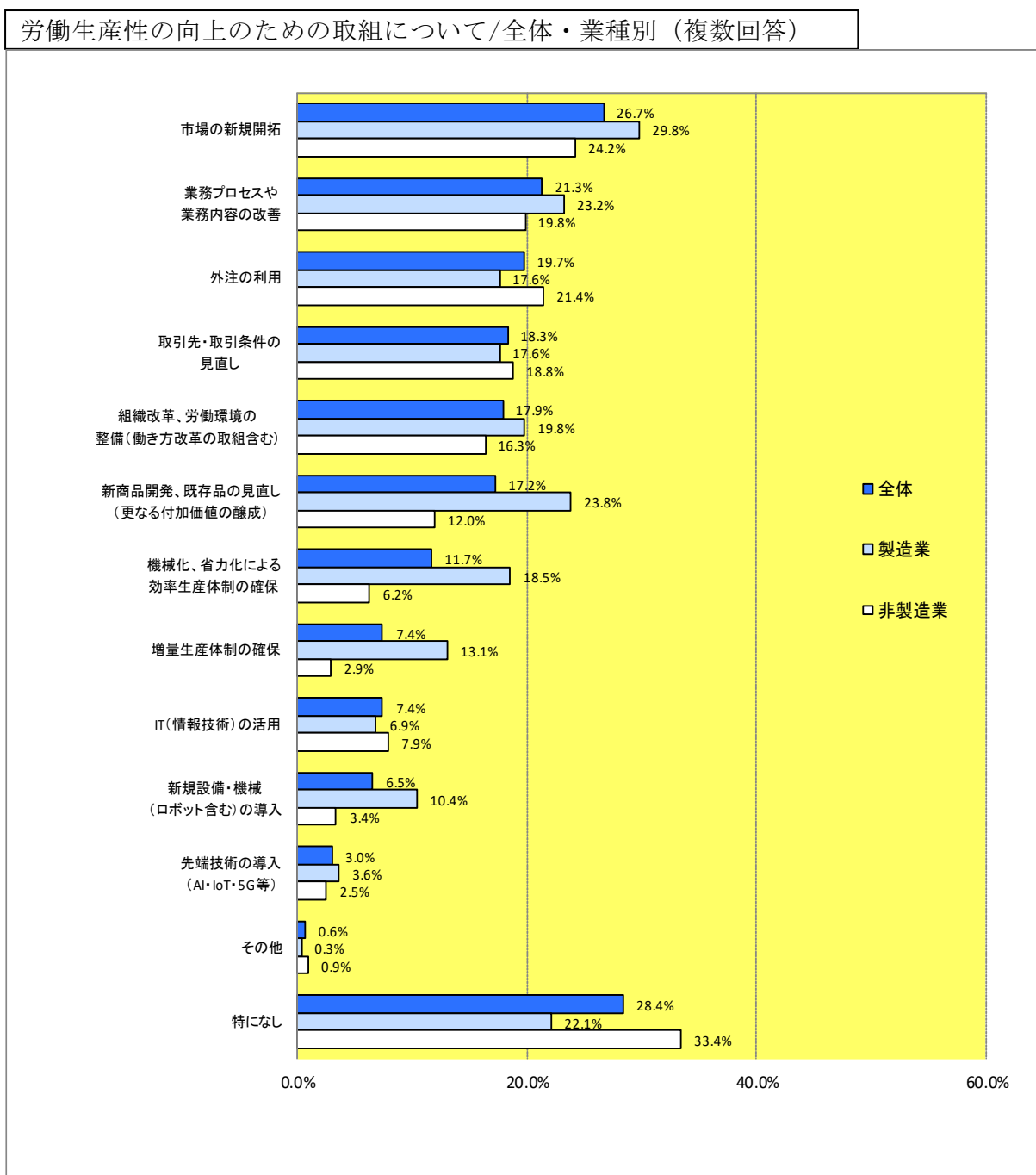
- 業種別でみると、今年度の設備投資計画（新規のみ・既存のみ・新規と既存両方の合計）の回答割合は、製造業は41.8%と非製造業の30.9%より、10.9ポイント高かった。



2 労働生産性の向上について

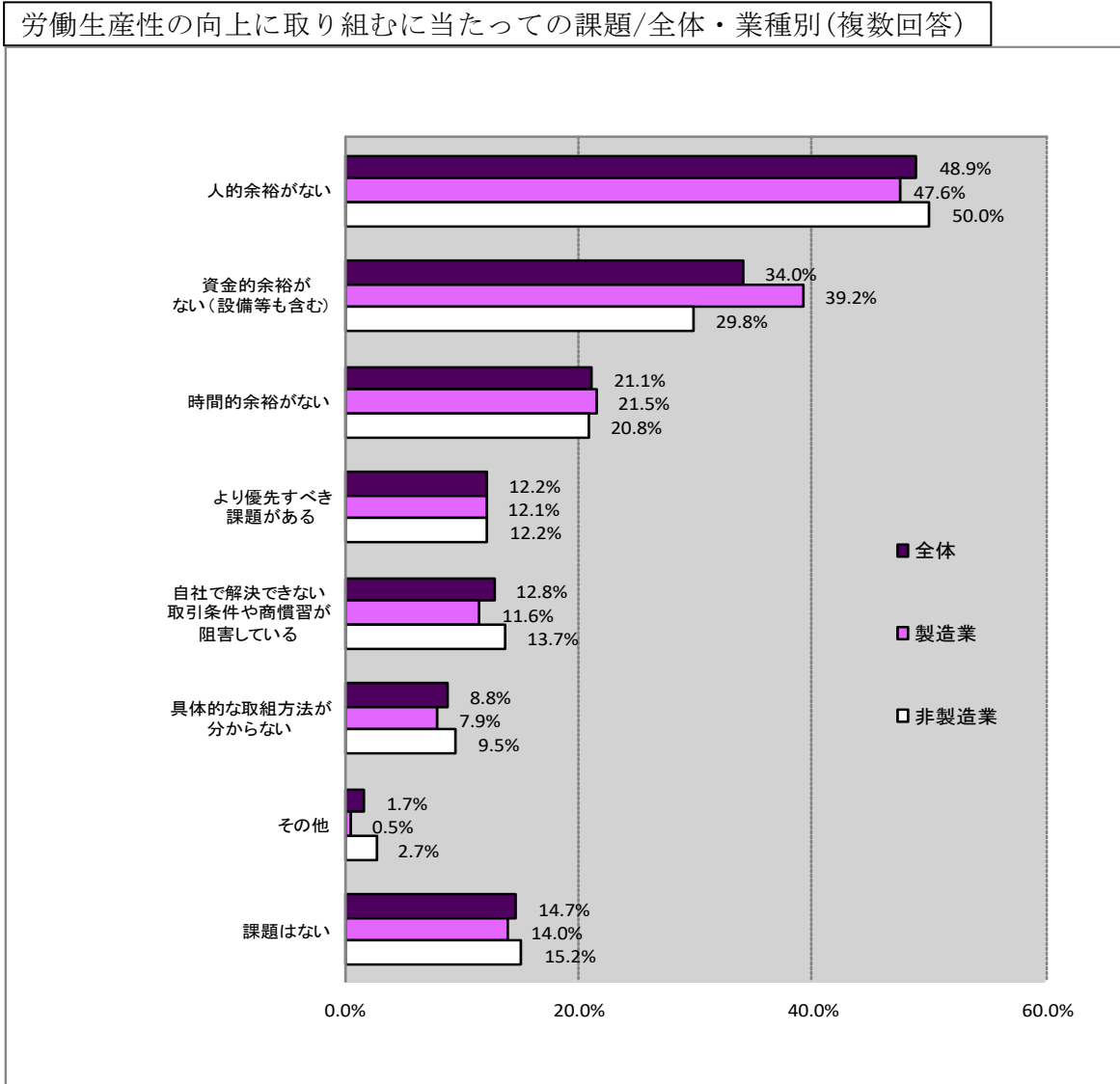
(1) 労働生産性の向上のための取組について

- 労働生産性の向上のための取組について聞いたところ、全体では「特になし」が28.4%と最も多かった。次いで、「市場の新規開拓」(26.7%)、「業務プロセスや業務内容の改善」(21.3%)の順となった。
- 製造業では、「新商品開発、既存品の見直し(更なる付加価値の醸成)」(23.8%)、「機械化、省力化による効率生産体制の確保」(18.5%)などが非製造業より回答割合が高かった。
- 非製造業では、「外注の利用」(21.4%)、「取引先・取引条件の見直し」(18.8%)などが製造業より回答割合が高かった。



(2) 労働生産性の向上に取り組むに当たっての課題

- 労働生産性の向上に取り組むに当たっての課題について聞いたところ、全体では「人的余裕がない」(48.9%)が最も多く、次いで「資金的余裕がない(設備等も含む)」(34.0%)、「時間的余裕がない」(21.1%)の順となった。



【特別調査 結果一覧】

1 設備投資の実施状況について

| | |
|--|-----------------------------|
| (1) 昨年度(2019年4月~2020年3月)の設備投資の実施状況 | |
| 1 新規設備投資のみ実施 (7.8%) | |
| 2 既存設備投資のみ実施(更新や改修) (26.1%) | |
| 3 新規と既存設備投資の両方を実施(9.3%) | |
| 4 設備投資は実施しなかった(56.8%) | |
| (2) 設備投資の具体的な内容(複数回答) | |
| 1 建物(工場・店舗等を含む) (22.9%) | 2 土地 (5.9%) |
| 3 車輛、運搬具(24.8%) | 4 機械設備(AI・IoT・ロボット) (9.2%) |
| 5 機械設備(AI・IoT・ロボット以外) (33.0%) | 6 工具・器具(13.7%) |
| 7 IT(情報技術)機器(20.8%) | 8 ソフトウェア (16.7%) |
| 9 レジスター、決済端末(4.9%) | 10 備品(10.8%) |
| 11 その他(3.1%) | |
| (3) 昨年度実施した中で、最も規模の大きかった設備投資の目的は(複数回答) | |
| 1 更新、維持・補修(66.1%) | 2 生産・販売能力の拡大(26.5%) |
| 3 合理化・省力化(20.0%) | 4 研究・開発(2.3%) |
| 5 環境保全対策(4.6%) | 6 他社(他店)との差別化(2.6%) |
| 7 多角化(2.5%) | 8 その他(2.8%) |
| (4) 今年度(2020年4月~2021年3月)の設備投資計画 | |
| 1 新規設備投資のみ計画(4.1%) | 2 既存設備投資のみ計画(更新や改修) (20.5%) |
| 3 新規と既存設備投資の両方を計画(11.1%) | 4 設備投資は計画していない(43.1%) |
| 5 分からない(22.0%) | |

2 労働生産性の向上について

| | |
|-------------------------------------|--|
| (1) 労働生産性の向上のために取り組んでいる具体的な内容(複数回答) | |
| 1 新商品開発、既存品の見直し(更なる付加価値の醸成) (17.2%) | |
| 2 市場の新規開拓(26.7%) | |
| 3 増量生産体制の確保 (7.4%) | |
| 4 先端技術の導入(AI・IoT・5G等) (3.0%) | |
| 5 新規設備・機械(ロボット含む)の導入(6.5%) | |
| 6 IT(情報技術)の活用(7.4%) | |
| 7 組織改革、労働環境の整備(働き方改革の取組含む) (17.9%) | |
| 8 業務プロセスや業務内容の改善 (21.3%) | |
| 9 機械化、省力化による効率生産体制の確保(11.7%) | |
| 10 取引先・取引条件の見直し(18.3%) | |
| 11 外注の利用(19.7%) | |
| 12 その他(0.6%) | |
| 13 特になし(28.4%) | |
| (2) 労働生産性の向上に取り組むにあたっての課題(複数回答) | |
| 1 具体的な取組方法が分からない(8.8%) | |
| 2 人的余裕がない(48.9%) | |
| 3 資金的余裕がない(設備等も含む) (34.0%) | |
| 4 時間的余裕がない(21.1%) | |
| 5 より優先すべき課題がある(12.2%) | |
| 6 自社で解決できない取引条件や商慣習が阻害している (12.8%) | |
| 7 その他(1.7%) | |
| 8 課題はない(14.7%) | |